

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372400822		
法人名	特定非営利活動法人 長寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり21岱明		
所在地	熊本県玉名市岱明町山下1037番地3		
自己評価作成日	平成21年10月30日	評価結果市町村受理日	平成21年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あるなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成21年11月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1. ケアプランを中心にケアを行い、問題点を共有し、改善への取組みをすこやかに進めよう努めている。</p> <p>2. ひまわり21岱明の理念として「家族として暮らす」を掲げ、家族として暮らす中で専門性も忘れないことを目指している。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>入居者主体のサービス提供や地域との交流を視点においた日常生活にホームのみならず法人が一体となって取り組んでいる。職員の研修体制も構築し、“ズボンで汚染軽減”をテーマにした取り組みは、尿失禁の改善や入浴拒否改善、入居者同士の関係構築、職員との関係構築、家族との関係再構築、そして、穏やかな日常生活へとつながり、事例検討を通してケア向上と職員のレバルアップに取り組んでいる。健康管理の徹底や重度化した場合には隣接の高齢者住宅への移動、また自主事業の“SOS介護”が活用できることも利点である。職員はチームワークも良く、代表者の地域福祉への思いを認識し、「自分達のケアを認めてもらい、働き甲斐のあるホームです」と話す職員の明るさが入居者の笑顔を引きだし、新たに作ったホーム独自の理念“家族として暮らす”が十分に垣間見えるホームである。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で自分らしく生活が出来るように職員全体で理念の大切さを理解、共有しケアに生かせるよう努力している。研修の場としてホームを提供している	住み慣れた地域で最後まで安心して暮らせる地域福祉の整備等長寿会のこだわり4項目を具現化し、今年度は全職員で話し合いホーム独自に“家族として暮らす”を掲げ、毎朝長寿会の理念をもとにその日の重要な事項を各人が話すことからスタートしている。長寿会の理念、ホームの理念は全員に浸透し、理念に基づいた年間目標をたて、その実現に真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入し回覧板や公報の手配りを入居者の方と一緒にしている近隣の方から野菜等の差し入れも頂いている。地域の行事に参加したり、散歩の時など気軽に声かけしている、これからも良い関係を継続させていきたい。	近隣住民とのふれあいを大切に、隣組に加入し回覧板や市政便りの配布等入居者と一緒に行い、散歩時の声かけや地域住民からの野菜の差し入れなどもある。地域の夏祭りや夜市の見物、小学校の運動会は案内状(小学生作の大きなポスター)が届き、法人合同行事には地域へも案内し交流を図る等地域のと相互交流に積極的に取り組んでいる。今年度は数年に1回行われる節頭祭りがホームにも訪れ、地域住民と共に楽しめたり、入居者の住み慣れた地域の敬老会への参加等もあり、地域の一員として根ざしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談や運営推進委員の方からの質問や対応についてや、制度利用の方法などにアドバイス対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で次回のテーマを決め参加される時に意見を持ってきていただくようなシステム作りを行っている為委員の方の意見を取り入れやすくなっている。毎回来所される事でホーム内の雰囲気を感じていただきその都度意見を受け止めている。	奇数付月の第3金曜日に開催している運営推進会議は、今年度より事前にテーマを決めて案内することに変更している。ホームの現状報告や情報の公表・外部評価等も議題としてあげ、包括支援センターの仕組みを教えてもらったり、年間行事予定を提示したことが委員の好意によりみかん狩りにつながるなど、有意義かつ効果的な会議となっている。近隣住民の参加も入居者の見守り支援となったり、各委員も行事に参加される等ホームに好意的であることがうかがわれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岱明支所に事あるごとに出かけコンタクトを取っている。敬老会の参加の呼びかけをしたり運営推進会議の予定を連絡したりしている。会議を通して気軽に交流が来ており、ホームのサービス向上に協力していただけていると思っている	運営推進会議への出席や困難事例の相談等行政担当者との密な連携を図り、市が先導している介護者の会への参加や行事参加依頼する等協力関係を築いている。また、社会福祉協議会の要請でヘルパー養成研修の受入れを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修予定で年1回は必ず身体拘束をしないケアの実践の学習をしている。日々の介護の中でこれも拘束に当たるのではないかな等のディスカッションを行いながら常に考えて行動するようにしている。	身体拘束や虐待等研修を行い、全員がその意味を正しく理解している。また、日常のケアの中で拘束の無いサービス支援に事例を通して話合っている。施錠も拘束の一つと捉え、外のフェンスや玄関を開錠し所在確認や寄添いのケアに取り組んでいるが、離所願望が強い時等状況を判断し内玄関を閉めることもある。また、地域住民も見守り支援として協力されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修予定に入れ学習する、本年度は3月に予定している。虐待の事例を挙げ実態を知り学習するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度学習の必要性を認識している、自己学習や研修会参加で知識を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な説明を行い、概要やホームの雰囲気を理解されたうえで入居して頂いている。契約の変更などがあった場合はすみやかにお知らせし対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時家族、本人の希望を十分伺い作成している。家族アンケートも作成し分析し職場会議で検討している。行事参加を呼びかけ話しやすい環境作りを行っている。	入居者からは日常のかかわりや会話を通じて意見等を聞きとりしている。家族からは年1回の家族総会時の意見交換や毎月利用料金持参時に意見をだしやすい雰囲気を作り、出された意見は全員で話し合い、改善に努めている。顔の見えるケアとして、夜勤専従職員も家族会で顔合わせをする意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議を毎月開催し、全体会議も毎月開催してその中で意見交換があり組織に反映させている	職員会議や法人全体会議・責任者会議等職員が意見を出す多くの機会があり、管理者は上層部とのやりとりが職員の張り合いや遣り甲斐につながると日常的に職員とのコミュニケーションに努め、神棚の場所変更等具体的な改善へと反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な全体会議を開催し、その中で勉強会があったり具体的に経営の実績や、処遇改善などは常になされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護研修への参加、その他認知症に関する研修会への参加の機会を設けている。内部では役職に応じた研修会や事例を通して勉強会をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に積極的に参加し他事業所との情報、意見交換を行っている。包括センターとも交流を深め意見交換を行っている。連携を持つことでストレス発散やよいきっかけ作りが出来るよう取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化が本人に与える影響を理解し不安なく過ごせるよう職員全員がしっかりと関わられる時間を持ち早く慣れていただけるようにしている。まずは関心を持ち関わることを重点にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	岱明グループホームの理念である「家族として暮らす」を基本に家族の立場に立って対応していく。本人の状況は当然ながら家族の話なども受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を相談時に見極め他事業所と連携をとりながら最善の対応が出来るようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で調理したり、掃除をしたりがあって共に活動している家族として暮らすと実践している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での活動に家族参加の機会を作り、家族との時間を提供できるよう努めている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域との関係を絶たないように散歩の時に声掛け合ったり、馴染みの病院や理美容院に行っている。		地域との関係性を継続するため、地域住民との散歩時の歓談や馴染みの美容室の利用、かかりつけ医の継続、墓参や葬儀への参列等家族の協力も受け支援している。また、地元の敬老会への参加や遠方の家族等へ手紙を出したり、電話連絡等、一人ひとりのこれまでの関わりを継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士の更なる関係作りに努め、入居者同士の支えあいに見守りながら支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が入院された場合などお見舞いに行き安否を気遣う取り組みを行っている。情報提供書は詳しく書き利用者の暮らしが急激に変わらないように配慮している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関心を持って関わることでその人の希望や訴えが分かりやすくなる。これを基に会議の中で話し合い支援をしている。		入居者一人ひとりに関心を持ってケア当たることをモットーに、寄添いや傾聴、入居者との会話の中から思いや意向を引き出している。難聴者にはジェスチャーや筆談で把握することをケアプランに入れ、夜間のゆっくりとした時間の会話から出た思いをケア会議で話合っている。柿をもぎに行きたいとの一言から、近くの柿に木を見に行ったり、干し柿を作る等出来ることは即時実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集の中で生活歴などを詳しく聞き記録に残しているこれを基にケアに活かせるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれに応じた生活時間を大切に出来るように努めている。全体で行うリハビリなどにこだわらず、出来ることを出来る人にしていただくケアをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファを行っている。変化があった場合にはミニカンファで検討しケアを行い、その都度家族への連絡は行っている。	ケアプランの考え方、書き方を研修し、担当制を敷き全員がプランを立て、アセスメントは誰がいつ・どうすれば入居者のケアにつながるかを考察し、実現可能なプラン作成に努めている。毎月のモニタリングやカンファレンス、心身状態の変化に応じた見直し等具体的・個別的なプランと詳細な援助内容である。家族にも検討事項を連絡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やケアチェック表を設け情報を確実に全スタッフが確認できるようにしている。その記録がケアプラン作成時の見直しにつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム併設の有料ホームと連携をとったり入居者同士の交流を行っている。デイサービスとも交流を持っておりその都度情報交換を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方や民生委員の方々との交流も盛んになりボランティアさんの紹介や施設行事への参加、地域行事への参加なども参加しており防火訓練などにも参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前よりのかかりつけ医師の診療を基本としている。生活歴、病歴を継続して見ていただくようにしている。入居中も安心して生活できるようにしている。異常時にはすみやかに連絡を取り指示を受け対応している。	入居前からのかかりつけ医での診療を基本としており、3ヶ所からの訪問診療や通院となっており家族の同行、または同法人が行っているSOS介護を利用した受診対応である。日常の健康管理により異常の早期発見に努め、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時は看護師が常勤としているので報告、指示はすみやかに出来ている。必要に応じて適切な対応ができるように努めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供書を詳細に書き環境の変化が少しでも軽減できるようにしている、入院中もお見舞いに出かけ馴染みの関係を保つように努めている入院中の経過を主治医より聞き家族と連絡を取り合っている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護が必要な時はホーム内の状況を考え主治医、家族との連携を図りケアの方向性を検討したいと考えている。看取り介護を行うことで介護技術の向上にもつながると思っている。		入居時にホームでは医療行為が出来ないことや有料高齢者施設が隣接しており受け入れ体制は整っていることを説明しているが、この2年間は急変等も無くターミナルの実例は無い。ターミナルケア説明書・依頼書・受託書や終末期ケア実践同意書を用意しており、家族や主治医・ホーム側で話し、最大限のケアをしていく意向である。	法人全体で様々な研修会が開催されており、今後も入居者の急変時にパニックにならないよう研修会を継続し、今後も家族との話し合いを重ねていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフではないが急変時、事故発生時の対応は身につけている定期的に研修や訓練を行い、知識や技術の習得に努めている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火訓練を定期的に行っている。災害時の避難場所も確保しており、地域のかたがたとの関係作りも出来ていると思っている。防災袋も準備しており年2回の訓練時に中身の入れ替えを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には姓での声かけを統一している。入居者の方を人生の先輩としての声かけ、対応に取り組んでいる。トイレ誘導時などは耳元で行い気配りをしているが気づく方もありプライバシー保護の難しさも感じている。	長寿会のこだわり、大切にしていることに“入居者の尊厳と権利を損なう言動はいたしません”を掲げ、常に敬語、姓での声かけ、人生の大先輩として敬いの気持ちを持って接する、一人の人間として感情深い人間関係を築く等具現化し、その実践に全員が取り組んでいることは訪問時の職員と入居者との関わりから確認できた。管理者も気づいた時にはリアルタイムで指導し、年間研修計画にプライバシーや接遇マナー等を入れ、研修している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や行事参加時などは、入居者の方へ声かけにて自己決定をしていただいている。拒否などの場合は時間をおき再度声かけしそれでもだめなら中止したり、入居者の方の希望を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てのこと個々に応じた対応を心がけている。起床時間や、就寝時間、食事時間もその方に合わせた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣などの促しはするが何を着るかは本人にお任せしている。理美容院も行きつけを利用されている。出来る限り馴染みの関係を継続して頂きたいと思っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けはその日の体調などを見ながら一緒に行っている。できるだけ食事を楽しんでもらう為に入居者の方に献立を聞きながら食事作りをしている。	前もって献立を作らず、近隣住民からの旬の野菜のおすそ分けや食材から食べたいものを聞き取り、入居者も出来ることを一緒に行っている。「何時でも手伝えるし、汚れても大丈夫」と割烹着姿で張り切られる入居者もあり、入居者・職員と一緒に和やかな食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い、主治医の検査結果を見ながら栄養や水分のバランスを考えている。特に主治医からの指示には相談しながら実行し健康管理に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。ADLの自立した方の拒否も多くなりがいだけだったり、されなかったりすることのあるが何とか頑張っている。		/	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は本人の羞恥心に配慮しながら、誘導時の声かけの仕方やさりげなく行うなどの周囲の環境に注意しながら行っている。排泄時の爽快感を大事にした支援として紙パンツ使用の方もトイレ誘導を行い排泄の習慣を大事にしている。		排泄記録によりパターンを把握し、羞恥心へ配慮しながらお茶や食事等区切り時に声かけしトイレ誘導を行っている。今年度は特に水分の摂取量と排泄量のバランスを考えた取組みやスカートからズボンへ替えたことが尿失禁の改善へとつながり、紙パンツと布パンツを自分で選択されるようになってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関して出来るだけ薬に頼らず自然排便が出来るよう普段の食事や、水分摂取、運動(ラジオ体操)などを行うよう心がけている。		/	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼から夕方までの時間で好きな時に入って頂いている。男性スタッフを嫌がる方もあり女性スタッフが対応したりしている出来る限り好みの時間に利用して頂きたいと考えている。		毎日希望時間の入浴であるが、入浴拒否者には気持ちよく入浴できるようにプランに入れ、声かけの統一や本人の行動としぐさを観察し、職員が話し合いを重ねた結果、職員との関わりを深めることに重点を置いたケアに取組み、汚染軽減・入浴拒否の回避ばかりではなく、入居者同士の関係や家族との再構築に繋がっている。このことは、事例検討として発表されている。また、系列のデイサービスでの入浴による気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて自室での休息や、その他見守りの出来る範囲で過ごして頂いたりして状況に応じて対応している。無理にホールで過ごしたりはしていない。		/	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬剤情報をもらいファイルを作りスタッフがすぐ分かるようにしている。病名、薬の効果、副作用など情報を理解した上で服薬確認をしている。		/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で入居者個別能力を把握しながら、その人の役割となる活動や作業が出来るよう働きかけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体能力に応じて外出手段を考え全員が外出できる機会を設けるようにしている。又家族の方や、地域の方も理解していただく事の必要も感じている。電話かけや買い物の希望などにも対応している。	近隣の散歩や個別買い物支援、地域行事への参加や夜市等の夜間の祭りにも参加している。家族からの外出が少ないとの意見から、家族会の中で協力要請をしている。	系列のデイサービスを活用したり、季節に応じた外出等も取りいれている。今後も家族に協力要請を行ったり、ボランティアの活用等も視野に個別外出が多くなることを全員で検討していただきたい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じた対応をしている。管理が出来る方には個人で管理していただいている、出来ない方には施設で立替管理している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に自由に使える公衆電話を設置しており、利用したい時に自由に使用してある。手紙は書ける方には積極的に家族に近況報告などを書いて頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すための環境整備を大事にしている季節の飾りや家具の配置、ホールから見える外の風景にも季節を感じさせるような工夫をしている。夏は日よけと涼しさを感じさせるように、ヘチマ、アサガオ、ゴーヤなどを植え、緑と収穫を楽しんでもらっている。	プランターに四季の花を植え、中庭を望める共有空間はクリスマスツリー等季節毎に飾り付けをしておいたり、夏場の暑さ対策に緑のカーテン(ヘチマ・朝顔・ゴーヤ等)で対応している。また、テレビを中心にレイアウトしていたソファを対人関係のあり方により変更したことが、仲のよい入居者同士の会話が弾むようになったとのことである。	職員は環境整備に取組み、特に掃除には力を入れ、入居者のトイレ使用後もチェックを行っている。エコへの取組みとしてEM菌の使用等を提案しており、今後薬剤の匂いが残らないものを採用することを全員で検討していただきたい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを数箇所配置している事で好きな場所で気の合う方同士過ごして頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室には本人の馴染みの家具や写真を持ち込んでいただいたり家族に協力をお願いしている。仏壇を持ち込まれたり各自自分の大切なものや馴染みの物を持ち込んで生活されている。	和室と洋室の居室にはテレビや冷蔵庫・仏壇・位牌等馴染みの品物が持ち込まれている。畳に布団と生活歴に応じた居室や生け花を生ける等自分の部屋であることを反映した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を下げて自分の部屋と分かるようにしたり、トイレにも表札をしている。又廊下には不要な物を置かないなどの気配りをしている。		